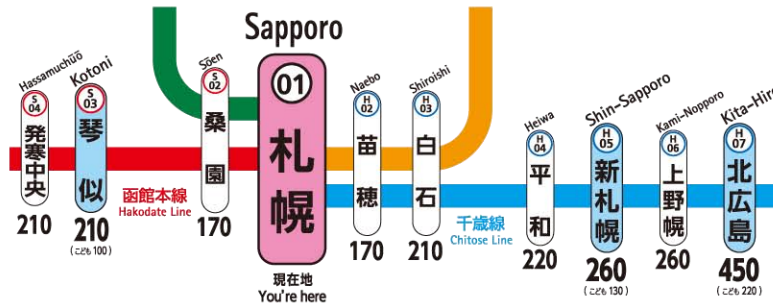
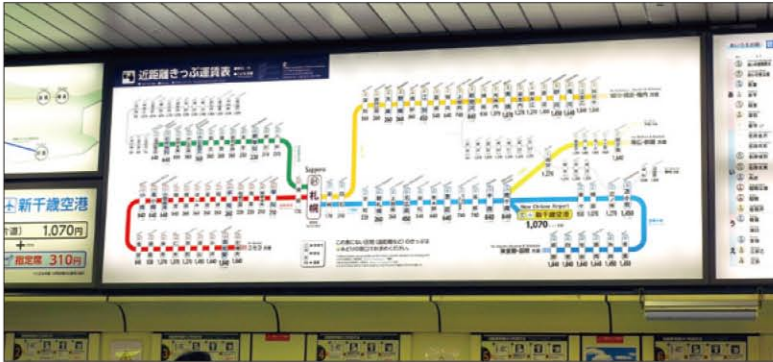


あした 未来へつなぐ

[CS]

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



(上)札幌駅に掲示された新運賃表。地図形式と表形式の二種類をリニューアルした。(下)札幌駅を起点に色別で線区を表記している。各駅名の頭につけられたナンバーが「駅ナンバリング」。

駅構内の運賃表がリニューアル！
「見やすさ」と「わかりやすさ」を重視し、見る人の視点に立ったデザインへ

J R北海道では、四月の運賃改定に合わせ、駅に掲示している運賃表のリニューアルを実施しました。特筆すべきは、これまで

で駅によって異なっていたデザインや表記を統一したことで、文字や色など、表示するうえでの基準を設け、「見やすさ」と「わかりやす

さ」を重視したことで、見る人の視点に立った運賃表へと生まれ変わりました。

変更点については、まず一つ目が文字のデザイン。「3」「6」「8」など、遠目からだと判別しにくい文字を、ユニバーサルデザインを意識した読みやすい文字に変更しました。すでに駅構内のサインなどには採用されていますが、運賃表で使用したのはこれが初めて。

続いて、二つ目は線区の色分けです。たとえば、「札幌」から「白石」までは函館本線と千歳線が並走していますが、従来の運賃表では一本の黒い線で表記するなど、不明確なものもありました。それが、リニューアル後は函館本線と千歳線とを色分けし、二つの線区に分けて表記しています。この線区の色分けには、二〇〇七年に導入した「駅ナンバリング」の区間カラーを採用し、案内表記類に統一

性を持たせたこともポイントです。また、主な観光駅については、「駅ナンバリング」も採用。ちなみに、各駅のナンバーはホームに設置された駅名の看板に記されています。

そして、三つ目は路線の向きと地理的な方向を合わせたこと。これにより、自分が利用する列車がどの経路をたどり、どこへ向かうかが一目でわかり、地図形式の運賃表が持つ本来の機能を発揮できるようになりました。今回、運賃表をリニューアルした駅は約四百六十カ所。新しい運賃表は、(社)日本サインデザイン協会からも評価を得ています。

今後は主要観光駅を対象に、案内表記などの五言語化を推進し、駅や列車を利用するすべてのお客様さまに対し、より一層のサービス向上を目指す方針です。